

令和6年度 学校評価(中間期) 令和6年7月実施
 【評価基準】 A:目標達成 B:8割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満

愛南町立船越小学校

項目	重点目標	評価指標及び目標値(※)	評価	考察(◇)及び改善方策(◆)	アンケート結果(%)						
					評価資料		4	3	2	1	
一 確かな学力の定着・向上	①確かな学力の定着向上に努める。	基礎・基本の確実な定着を図り、児童に確かな学力を身に付けさせようとして努力している。 ※学級担任全員が肯定、児童・保護者の90%以上が肯定 ※各教科の単元テストでの平均正答率80%以上(A判定)が80%以上	B	◇教職員、児童、保護者全員が肯定回答である。基礎・基本の確実な定着を図るために、教職員が授業や宿題等において工夫・改善していること、また、児童自身もその授業の目標を理解して学習に一生懸命取り組んでいることが分かる。しかし、単元テストでの正答率を見ると、平均正答率が80%以上の児童は、全校の6割程度までとなっており、目標値には届いていない。一人学年が多いためと考えられる。 ◆引き続き、一人ひとりに応じた学習形態を模索し、確かな学力の向上を図る。また、定期的に既習内容を復習する機会を設け、学習内容の定着を図る。 ◆継続して、校内検定(算数、漢字)を実施する。	教職員アンケート3-①②	83.3%	16.7%	0.0%	0.0%		
					児童アンケート⑤⑥⑦	62.5%	37.5%	0.0%	0.0%		
					保護者アンケート⑯	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%		
					肯定率平均→	100.0%					
	単元別テスト各学年平均正答率					A年	B年	C年	D年	E年	
						93.7	64.0	85.9	82.6	70.8	
	②基本的な学習習慣を確立する。	児童の学習意欲を高め、文章を読み取る力や自分の考えを豊かに表現する力。 ※教職員の80%以上が肯定	◇今年度は、朝学習の時間を設定し、読解力や表現力の向上を図っている。また、チャレンジタイム(全校話合いやファミリー班活動、句会等)を通して、自分の考えを表現したり、友達の話を聞いて感想を交流したりすることができた。一人学級のため、話合い活動が難しい面があるが、他校とのオンライン交流授業を実施し、同学年との意見交流の機会を設定している。 ◆今後も、各教科で多様な表現・発表の場を設定し、経験を積ませることで表現力の向上を図る。 ◆表現するための語彙力の向上を意識し、様々な表現に触れる機会を増やしたい。引き続き、他校とのオンライン交流活動を取り入れながら、同学年で対話する機会を増やしたい。相手意識を持たせて、自分の言葉で表現できる力を伸ばしたい。	A	教職員アンケート3-⑦	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%		
				肯定率平均→	100.0%						
				ICT機器を有効に活用し、児童の学習意欲を高めたり、成績処理を効率よく行ったりしている。 ※教職員・児童の80%以上が肯定	◇教職員、児童の肯定率は100%だった。デジタル教科書やEILS(愛媛ICT学習支援システム)、ミライシード(業者学習支援システム)等の活用により、教材を分かりやすく提示したり、児童同士の考えを共有したりすることができたと考えられる。児童自身もタブレット端末を活用する学習に意欲的に取り組んでいた。 ◆それぞれの学年に応じたICT機器の活用の工夫を考え、使用するアプリケーション等の選択をすることが大切である。児童が意欲的に学習に取り組めるよう、より良い活用方法について研修を重ね、授業での実践につなげたい。	A	教職員アンケート3-③	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%
						児童アンケート⑧	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	
肯定率平均→	100.0%										
③生徒指導の徹底と健全育成に努める。	宿題を含む家庭学習を、低学年30分、中学年40分、高学年60分程度の習慣が身に付いている。 ※教職員・児童・保護者の80%以上が肯定	◇教職員や児童の肯定率は90%以上だが、保護者の肯定率は50%に留まっている。評価指標を基にした評価ではA評価となっているが、児童の家庭学習の様子は家庭の方が最も近くで見られているので、学習習慣の定着には、ある程度の課題があると考えられる。 ◆やるべきことはきちんと済ませるという意識を持たせ、自分でやろうとする気持ち(主体性)を育てる必要がある。宿題も目的意識を持って意欲的に取り組めるような工夫が必要である。児童の理解度を把握し個に応じた宿題を出すなど、家庭学習に主体的に取り組める工夫をしていきたい。今後、学級通信や計画帳での家庭との密な連絡・連携やICTの活用等を大切にしながら取り組んでいきたい。	A	教職員アンケート3-⑤	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%			
			児童アンケート⑦⑪	50.0%	43.8%	6.3%	0.0%				
			保護者アンケート③④	0.0%	50.0%	10.0%	40.0%				
			肯定率平均→	81.3%							
二 豊かな心の育成	学校運営協議会所見 ○ICTの活用が、児童の学習への意欲を高めたり、教職員の成績処理の効率が高まったりしているのは分かるが、学力の向上が分かる数値的なものはないのだろうか。 ○読書活動をもっと取り入れてほしい。 ○学習習慣に関するアンケート結果では、ご家庭と職員との結果のずれがあるのが気になる。 ○学習習慣の確立の改善方策で「～今後、学級通信や計画帳での家庭との密な連絡・連携やICTの活用を大切にしながら取り組んでいきたい。」とあるが、具体的にどのような取り組みをするのか。	学校の対応 ○全国学力・学習状況調査結果から6年生の数値的なものは出ているが、全学年ではそのようなものはない。ただ、最上段の項目で触れているように単元テストの結果を評価指標に取り入れている。今後、単元テストの推移も参考にしていこう。(所見等検討の資料には、結果を入れておりませんでした。申し訳ありません。) ○今年度、読書集会等、新し取組を取り入れている。今後、学力の定着や学習習慣に結び付けよう、継続し、その効果も検証していく。 ○参観日等の公開授業や懇談会等で、学校と家庭がお互いに考えを理解できるような工夫をしていきたい。 ○これまでの方法を継続しながら、さらに丁寧な取組を検討し実践する。	学校運営協議会所見	教職員アンケート8-③	71.4%	28.6%	0.0%	0.0%			
				児童アンケート①⑩⑫⑬	68.8%	25.0%	6.3%	0.0%			
				保護者アンケート⑧⑨⑪⑬⑮	44.0%	40.0%	16.0%	0.0%			
				地域アンケート⑥	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%			
	肯定率平均→	94.4%									
	④地域を活用した体験活動を充実する。	教育相談体制を確立して児童理解に努め、温かい人間関係づくりに努めている。 ※教職員・児童・保護者・地域住民の90%以上が肯定	◇日々の活動の中だけでなく、職員会・研修会、毎月の定期教育相談、アンケート、学校運営協議会等、様々な方法、機会を通して、児童理解に努めより良い支援・指導を目指した。 ○評価指標としては全体として90%以上の肯定率となりA評価だが、保護者の肯定率は80%台である。 ◆引き続き、様々な方法や機会を通して、児童の学校生活の様子を把握できるようにしていく。さらには、学級通信や懇談会などで、児童の成長した点や長所を伝え、保護者との連携を密にする。 ◆教育相談やアンケートについては、定期にだけでなく必要なタイミングでも実施し、迅速で適切な支援につなげる。 ◆必要に応じて、学校運営協議会や関係諸機関との連携を密にし、いろいろな視点から改善できるように取り組む。 ◆教職員同士で児童の善行を共有し、児童の自信へつながる生徒指導を全教職員で進める。	A	教職員アンケート 3-⑪ 6-④⑪⑮-⑤	26.3%	57.9%	15.8%	0.0%		
				保護者アンケート⑰⑱	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%			
				地域アンケート④⑤⑧	73.3%	20.0%	6.7%	0.0%			
				肯定率平均→	92.5%						
	⑤『考え』『つながり』『挑戦』し、笑顔あふれる」学校風土を醸成する。	地域を学んだり、地域人材の指導を受けたりするなど、地域を活用した体験活動を計画的に実施する。 ※教職員・保護者・地域住民の80%以上が肯定	◇総合的な学習の時間の防災学習や生活科の地域探検を通して、船越の人やもの良さに触れる中で、自分たちの安全のための工夫や地域との関わり方について考えることができた。参観日等では、保護者とともに防災について考え、具体的な取り組みについて意見を交流することができた。 ○地域の人材(教育力)の活用についての項目では、教職員、地域共に肯定率は100%となっていない。 ◆地域そのものを学んだり、体験したりする活動は実施できているので、その活動の中に地域の人材(教育力)から学ぶ機会を設ける工夫をしていきたい。	A	教職員アンケート3-②⑤⑧	61.1%	38.9%	0.0%	0.0%		
児童アンケート⑥				75.0%	25.0%	0.0%	0.0%				
保護者アンケート⑯				40.0%	60.0%	0.0%	0.0%				
肯定率平均→				100.0%							
学校運営協議会所見	全校児童が共通の目標に向かい、心を合わせて頑張る活動を実施する。 ※校内漢字・算数検定合格を目指し、基礎的・基本的学習内容の定着を図るための自主学習や宿題の提出を行う。 ※児童・教職員・保護者の80%以上が肯定	◇教職員、児童、保護者共に肯定回答が100%であり、評価指標による評価はA評価である。 ○教職員においては、個に応じた具体的な手立てを工夫しながら、基礎学力の確実な定着に努めている。その反面、家庭学習習慣を身に付けさせる項目では、3の回答が多い。児童においては、単元テストや校内漢字・算数検定の結果から、8人中6人が4を回答している。保護者においては、基礎学力定着のための適切な指導に対して、3の回答が多くなった。以上のことから、児童の基礎学力は向上していると言えるが、十分なレベルには達していない。 ◆子どもが家庭学習に自ら進んで取り組めるよう、少人数の強みを生かした個に応じたきめ細かな指導と授業と家庭学習をつなげる手立てを工夫していく。	A	教職員アンケート1-③⑤	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%			
			児童アンケート④	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%				
			肯定率平均→	100.0%							
			○学年で1人の学級など少人数であるが、他校との交流活動を積極的に進め、子どもが自分の良さを認め合う機会を数多く設定している。今後も交流活動等、そのような場を充実させてほしい。	学校の対応 ○4月の遠足は福浦小学校と合同で実施した。その他にも、鹿島シューケーリング体験活動、校内マラソン大会、米作り(田植え、稲刈り)等を福浦小学校や緑小学校との合同で実施している。また、クラス単位での交流活動・授業も、1人1台端末を利用したオンラインで進めている。今後も、直接・間接を問わず、多くの交流活動に取り組み、自己肯定感の伸長につなげたい。	学校の対応	児童アンケート④	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	
肯定率平均→	100.0%										

項目	重点目標	評価指標及び目標値(※)	評価	考察(◇)及び改善策(◆)	評価資料	アンケート結果(%)			
						4	3	2	1
三 健やかな心身の育成	⑥体力・運動能力を高める教育活動を充実する。	体力テストの結果を活用し、体育の授業において、不足している体力・運動能力を向上させるための運動を取り入れる。 ※体育の授業全体の70%以上、朝運動を週2回実施	A	◇新体力テストの結果として、A級合格者4名、パーフェクト自己新記録賞6名であった。個別に考察すると、柔軟性に課題があることや、6年生の持久力・走力・瞬発力等が、全国平均よりも低い結果となった。 ◇体育の授業では、柔軟運動や体幹トレーニングを取り入れ、基礎体力の向上に努めた。 ◇運動に取り組む際に、消極的な言葉が寄せられていたが、「そう思えばそうなる(交流したトライアスリートの言葉)」を合言葉に、水泳練習に取り組んだ結果、町水泳大会200mフリーリレーで、3位入賞を果たした。 ◆「やればできる」という積極的な心で、2学期以降も体育の授業や放課後の陸上練習等を通して、体力向上に努める。	不足している体力・運動能力を向上させるための運動の実施率	低	70%		
	⑦基本的な生活習慣の確立、保健指導・安全指導を充実する。	家庭と連携・協力して基本的な生活習慣の確立・定着を図ったり、全職員で個に応じた保健指導・安全指導を徹底したりして、全校児童出席日を増やす。 ※年間全校児童出席日が150日(約75%)以上 ※教職員・児童・保護者・地域住民の80%以上が肯定	A	◇各学級や全校給食、各種通信などで指導、啓発を行うことができた。特に、全校給食の実施により、食に関する指導等、校内で統一したい指導を全職員で行える場を増やすことができた。そのため、該当項目の肯定率が目標値を大きく上回る97.7%となり、生活習慣の確立や保健指導・安全指導の充実につながったと考えられる。しかし、項目によっては評価が低い項目もあるので、個別での声掛けや指導の工夫は必要であると思われる。 ◆引き続き、機会を捉えて規則正しい生活習慣の指導を行っていく。また、学校だより、学級だより、保健だより等を通じて学校の取組を周知するとともに、学校保健委員会を開催し、保護者と連携しながら個に応じた指導を継続できるようにしていく。また、年間全校出席日数150日以上を達成するために、感染症への予防対策についてもしっかりと指導していく。	教職員アンケート1-②⑦-①②③④ 児童アンケート③⑬ 保護者アンケート⑥⑦⑫ 地域アンケート①②⑦	48.6%	48.6%	2.7%	0.0%
	学校運営協議会所見	○具体的な学校名は忘れたが、松山市の学校では、保護者と一緒で過ごすのであれば、登校しなくても出席扱いになるという話を聞いたことがある。愛南町ではどのような扱いなのだろうか? ○町内水泳大会の活躍をうれしく感じました。	学校の対応	○現在のところ、愛南町では一般的には、病気や感染症でない場合は「事故欠(交通事故という意味ではありません)」として欠席扱いとなっております。該当学校のお話は、学校独自の特別な事情があるということかもしれないので、今後、調べておきたい。 ○全児童での参加だったが、中でも200mリレーは6年生が一丸となり、入賞を果たすことができた。各児童の体力を高めるだけでなく、他の児童へ勇気を与える活動となった。	肯定率平均→ 全校児童出席日数	97.7%	53日/71日(74.6%)		
四 特色ある学校づくり	⑧開かれた学校づくり、地域に信頼される学校づくりを目指す。	地域の人や保護者に対して、学校の取組の周知に努め、願いや思いを把握し、誠意をもって対応するよう努めている。 ※教職員・保護者・地域住民の80%以上が肯定	A	◇学校だより・学級通信、学校ホームページで学校の取組や情報の発信にできる限り努めた。また、家庭訪問・個人懇談会や学校運営協議会の場で、ご家庭や地域のご意見を理解できるように取り組んだ。また、参観日等の学校公開の場を確保し、学校での子どもの様子を見ていただく機会を毎月1回以上持つことができた。結果として、9割以上の肯定回答を頂いたが、ご家庭や地域にご心配・ご迷惑を掛けている点等、具体的な課題もあった。 ◆今後も、同じ方法で情報発信やご家庭・地域のご意見を汲み取ることに努めていくとともに、情報発信や公開行事・活動の時期や回数を見直したい。また、引き続き、学校・地域協働活動参加希望者へ行事開催の情報提供を行ったり、学校運営協議会で地域と学校が考えを確認し合うことにより、さらに開かれた学校づくりにつなげたい。	教職員アンケート11-①③ 保護者アンケート⑩⑭⑰⑱ 地域アンケート③④⑤⑧	68.8%	31.3%	0.0%	0.0%
	学校運営協議会所見	○今後も、開かれた学校づくりを目指し、学校の取組の周知や地域や家庭の願いの把握に努めてほしい。	学校の対応	○学校便りを中心として学級通信や本校HP等で学校の取組を発信してきたが、これからも取組を丁寧に伝え、透明性のある教育活動に取り組んでいく。 ○地域やご家庭の協力なしには、教育活動は成り立ちません。学校運営協議会や懇談会等、直接お話を聞く中で、地域やご家庭の考えを汲み取り、子どもたちの成長につなげる。	肯定率平均→	95.8%			
五 指導力の向上	⑨指導力の向上を目指す、組織的・計画的な研修を実施する。	お互いの指導力向上に役立つ、組織的・計画的な校内研修を実施する。 ※教職員の80%以上が肯定	A	◇校内研修は、計画に沿って行っている。教材研究などの自己研修を行う時間を適切に確保することが課題である。校外研修にも積極的に参加し、指導力の向上を図っている。 ◆引き続き、計画に沿って研修会を確実に実施し、学期ごとに行う校内研修アンケートの結果を踏まえ、PDCAサイクルを回すことで、より効果的な研修へと改善を図っていく。	教職員アンケート10-①②③④	65.5%	34.5%	0.0%	0.0%
	学校運営協議会所見	○これからは研修計画や学校の目標に沿って、研修に努め、学校教育目標の実現につなげてほしい。	学校の対応	○今後、研修計画を基にするだけでなく、変化・変容する子どもの実態に対応した研修を進めたい。また、校外研修への参加も積極的に勧め、研修内容の校内での報告につなげ、校内研修活動に新しい流れや見識を取り込みたい。	肯定率→	100.0%			
六 命を守る安全教育	⑩健康・安全教育の推進に努めるとともに、学校の安全体制を確立し子どもの命を守る。	あらゆる場を通じて、事故や災害から自分の命を守る知識や方法を指導して、「命を守る」能力を高める。 ※地震・火事・津波の時の避難の仕方が具体的に分かっている児童・教職員・保護者・地域住民の100%が肯定	B	◇アンケート結果としては、教職員、児童、保護者、地域のほとんどの項目が肯定回答であった。教職員の避難訓練の実施に関する項目では肯定回答は100%ではなかった。1学期は地震や水難に関する訓練だったが、「予告なし」の訓練を実施することができなかった。児童の「実施した避難訓練で安全に避難する方法を理解しているか」の回答では、肯定回答が100%であったが、本当に理解し「命を守る」能力が高まっているかを確認するために、予告なし訓練の実施が必要である。 ◆2学期以降は、地域と合同の避難所開設や県事業「シェイクアウトえひめ」等、地震だけでなく、火災の訓練も予定している。子ども自身が自分の命を守る知識・方法を身に付けられるよう、予告なし訓練も含め、事前指導や事後指導(振り返り)の方法を見直し、より効果的な訓練を目指したい。	教職員アンケート7-⑥⑦⑧⑨ 児童アンケート⑱ 保護者アンケート⑫ 地域アンケート②⑥⑨	71.0%	25.8%	3.2%	0.0%
	学校運営協議会所見	火気・施設等の確認を徹底し、定期的な安全点検を全教職員で行い、安全確保に努めている。 ※教職員の100%が肯定	A	◇教職員の全員が肯定回答であった。毎日の火気・施設等の確認や毎月の施設の安全点検が実施できた。 ◇毎月の安全点検においては、点検担当箇所を月ごとに変更することで、点検者の固定観念に陥ることを防ぎ、より多くの視点から安全点検を実施することができた。 ◆今後も、毎日の火気・施設確認を徹底し、月1回の安全点検を欠かすことなく実施することで、より一層の安全確保に努め、安心して学べる学校を目指します。	教職員アンケート7-⑤	87.5%	12.5%	0.0%	0.0%
	学校運営協議会所見	○プールは水泳シーズンが終わった後、水を溜めているのだろうか。 ○地域合同の避難訓練を今年度も実施する予定である。学校も一緒に地域の防災力の強化へ協力をお願いしたい。 ○定期的な安全点検にどのように取り組んでいるか。	学校の対応	○水泳シーズン後は、水質を保つための機械は止めるが、水はそのまま溜めたままにしている。 ○児童の防災意識を高めるための学習として参加いたします。 ○学校施設を4つに分け、1人または2人でそれぞれの担当場所を月ごとに変えて点検し、最後は問題があった場所を管理職で確認し、状態によっては教育委員会に報告し修繕をしている。	肯定率平均→	99.2%			
七 特別支援教育の充実	⑪個別の指導計画を適宜作成・活用し、指導・支援を効果的に行う。	必要な児童の個別の指導計画を作成・活用し、共通理解のもと個々の能力を伸ばす指導・支援を行う。 ※教職員の100%が肯定	A	◇校内研修会において、特別支援教育校内委員会を2回行った。1回目は、各学級での学習や行動についての実態把握をもとに話し合い、個別の指導計画が必要な児童の確認をした。2回目は、作成した個別の指導計画をもとに、1学期の取組や児童の様子について情報交換を行い、全教職員で共通理解を図ることができた。 ◆1学期の評価や反省をし、指導の手立てなどの見直しや改善をしながら、個別の指導計画を作成する。 ◆校内研修会で、各学期ごとに特別支援教育校内委員会を開き、話し合いや情報交換をしながら共通理解を図り、よりよい支援を行う。 ◆特別支援教育の視点に立った指導法の工夫や改善に努める。	教職員アンケート12-①②	85.7%	14.3%	0.0%	0.0%
	学校運営協議会所見	○しっかりと計画性を持って指導・支援を行っている。今後も一人一人を見つめる教育に取り組んでほしい。	学校の対応	○今回の評価や反省を生かし、指導計画を見直している。その中で、職員相互の共通理解を確かなものとし、学校全体での合理的な配慮やより良い指導・支援につなげたい。	肯定率→	100.0%			
安全点検						・月1回実施 ・警報発令時に適宜実施			